事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年02月12日

事業所名 放課後等デイサービス くりーむうさぎ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	0			児童人数、年齢、体の大きさなど当 日様子を見ながら1階、2階のスペー ス確保を都度おこなっている
	2	職員の配置数は適切である	0		特に郊外活動等は基 準以上配置実施	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された 環境になっている。また、障害の特性に応じ、事 業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等 への配慮が適切になされている	0			生活空間、バリアフリー等の必要性 は自立への取り組み、安全への意識 も含めて利用状況により配慮、取り 組んでいる
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境に なっている。また、子ども達の活動に合わせた空 間となっている	0		プレイルーム、学習ルーム等、場面により切り替えの場所を作っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標 設定と振り返り)に、広く職員が参画している		0	児発管MT資料での指 導員協議実施	連絡ノートの作成と皆に周知、把握し てもらうための時間確保
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して 事業所の評価を実施するとともに、保護者等の 意向等を把握し、業務改善につなげている		0		要望内容に添えるように状況確認。 保護者意向と児童の思いを考慮した 上で改善に繋げる
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で 公開している		0		評価表配布。評価結果を真摯に受け とり改善評価リスト作成。児童の環境 スペース優先に改善していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務 改善につなげている		0	相談支援,児童発達支 援連携強化	評価表の配布やヒアリングより評価 結果を確認
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	0			人員配置、送迎時間など含め適宜人 数調整確保(月により変動あり)
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達 支援計画を作成している	0		初回・半年・3か月毎 、保護者・相談支援3 者面談実施	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化 されたアセスメントツールを使用している	0		SST基本(イラスト活用)・音楽・水泳・郊外 活動等	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	0			児童発達支援計をベースに支援内 容の追加や様式を変更する
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われてい る	0		年2回音楽発表会・リト ミック開催(自主参加)	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	0		児発管主にチームMT 開催(療育前)	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	0		生活歳時を重視し、イ ベント活用	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し ている	0		適時・組み合わせ対応	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	0		段取り、支援中の様子、支 援後の情報交換ができる ように朝夕と時間確保	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、そ の日行われた支援の振り返りを行い、気付いた 点等を共有している	0		朝MT・伝達ノート活用	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支 援の検証・改善につなげている	0		療育連絡帳・個人記録 活用しMT開催	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計 画の見直しの必要性を判断している	0		保護者・相談支援面談 開催で対応	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい 者が参画している	0		児発管・指導員リーダ 一参加	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関 係機関と連携した支援を行っている	0		相談支援·児童発達支 援連携強化	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の 関係機関と連携した支援を行っている		0		現時点、医療ケアの必要性がある児童なし。今後必要性の可能性もあるため、保護者の連携より主治医との連絡体制を確保する
関や保護者	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制 を整えている		0		現時点、医療ケアの必要性がある児童なし。今後必要性の可能性もあるため、保護者の連携より主治医との連絡体制を確保する
者との連	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0		定期的開催(児童指導 員を中心に)	
携関係	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0			充分とは言えず、小学校・支援学校と の情報共有化・連携強化(定期的)
機関や保	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と 連携し、助言や研修を受けている	0		支援内容の様子を直 接見学に行き、確認・ 情報の共有化図る	
は 護者との	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	0		地域の公園を活用	地域住民の子どもとの関わりは少し ずつでてきている。各関連事業所へ の交流は研修での機会を通して行う
連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・ 子育て会議等へ積極的に参加している		0		時間調整、積極的参加を目指す
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	0			保護者と共有する職員が限定されないために、多方向からの視点でより共有、課題が見つけれるような割り当て検討
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		0		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を 行っている	0		契約時重要事項説明 をベースに実施	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これ に基づき作成された「児童発達支援計画」を示し ながら支援内容の説明を行い、保護者から児童 発達支援計画の同意を得ている	0		年次・半年毎面談で実 施(3か月毎の確認面 談も活用)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	0		療育連絡帳·適時活用	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		0		課題、必要性を都度検討し、今後支援行う
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速 かつ適切に対応している	0			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対し て発信している	0		事業所の通信簿を作 成配布	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	0		従業員守秘義務契約の	基、遵守徹底(管理者注視)
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	0			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている		0	地域活動参加	信頼性を深め、課題、必要性の検討 から今後計画を図る
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	0		次亜塩素酸水導入(除 菌・ウイルス対策徹底) ・空気清浄機(加湿機 能付)活用	一応定めているが、緊急対応・防犯 マニュアル等拡充が必要
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そ の他必要な訓練を行っている		0		定期的な訓練の導入。訓練時期予め 決定、予定に組み込み
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	0			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	0			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有し ている	0		報告帳活用 情報共有化	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	0		メディア情報配信につ いては強化している	不定期的なため研修機会の定期的 参加を目指す
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		0		今後、児童の状況判断、身体拘束に おける職員の理解とともに計画に記 載追加。事前説明行う

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。